

名刺表面デザイン



名刺裏面デザイン

デザイン A



叡福寺 (えいふくじ) 【府指定史跡】【日本遺産構成文化財】

太子町にある磯長山叡福寺は、聖徳太子御廟前にあることから分かるように、その墓を守護する寺院です。聖徳太子は生前、この科長の地に墓所を築き、母后・妃もここに類葬られています。推古天皇はこの太子が眠る墓所を守るために叡福寺を建立したと伝えられています。

デザイン B



推古天皇陵 (すいこてんのうりょう) 【日本遺産構成文化財】

推古天皇は日本で最初の女帝であり、甥であった聖徳太子を摂政にし飛鳥文化を花開かせた第 33 代天皇です。推古天皇陵は推古天皇とその子、竹田皇子(たけだのみこ)の合葬陵とされています。一辺約 60m の方形墳で、古い記録には石室内に二つの石棺が安置されているとの記録も残っています。

デザイン C



黒駒と五字ヶ峯伝承

聖徳太子は日本各地から集めた良馬の中から、四脚の白い甲斐の黒駒が神馬であるとして、大切に育てました。太子が黒駒で日本中を巡視し、富士山に登った時、河内に五色の瑞光が見え、あの光輝く所を自らの墓所と決め墓を造らせたと伝えられています。それが現在、御廟北にある「五字ヶ峯」です。

デザイン D



西方院 (さいほういん)

聖徳太子の死後に、その乳母であった月益姫(蘇我馬子の娘)・日益姫(小野妹子の娘)・玉照姫(物部守屋の娘)の 3 人が剃髪し、名を善信・禅蔵・恵善と改め仏門に入り、墓前にお堂を建立して、太子の冥福を祈ったのが寺の始まりと伝えられています。寺の南側の墓地内には、この三尼公の御廟と伝えられる 3 基の石塔が残されています。本尊は、聖徳太子作と伝える阿弥陀如来と恵心僧都作と伝える十一面観世菩薩像。

デザイン E



小野妹子墓 (おののいもこのはか) 【日本遺産構成文化財】

科長神社南側の小高い丘の上に、古くから小野妹子の墓と伝えられる小さな塚があります。小野妹子は、推古天皇の時代に日本で初めて遣隋使として、当時中国大陸にあった隋という大国に派遣された人物です。小野妹子が聖徳太子の守り本尊の如意輪観音の守護を託され、坊を建て、朝夕に仏前に花を供えたのが、池坊流の起りになったとされています。